

五位の池小学校まち発見ウォーキング

こうべまちづくりセンターでは、11月20日の土曜日、長田区の五位の池小学校4年生と、タウンウォッチングを行いました。五位の池小学校のみんなは、バリアフリーのまちづくりを日頃から熱心に勉強しており、タウンウォッチングを行なうのは、昨年に引き続いて2回目です。



板宿駅の北東、高取山のみもとにある五位の池小学校



タウンウォッチングの方法を熱心に聞く子供たち



自分たちの担当する地域に向かうみんな



リーダーといっしょにまち歩きをする



危険なところ・危ないところを写真に撮ってチェック



学校に帰ってきて、自分たちの歩いた所を地図にする



タウンウォッチングをして気づいたこと感じたことを発表しました



完成した地図を囲んで

五位の池小学校の校区を分担して歩き回り、自分たちのまちの良いところ悪いところを、写真に撮ったり、地図上に書き込んだりして、班ごとに1枚の大きな地図にまとめました。(タウンウォッチングの感想)

「自分たちのまちは、今は、高齢者や障害者にとって、決して住みよいまちではないが、これから、自分たちで考えて、よいまちにしていきたい」と、頼もしい感想が多く寄せられました。

「山麓リボンの道」写真募集

「山麓リボンの道」は、東灘区から垂水区までの主に山麓部を通る散策コースです。この山麓リボンの道では、来年の1月9日(日)まで、ウォークラリーを実施しています。また、沿道の魅力的なスポットの写真を募集し、その中から選定したものをこうべまちづくりセンターで開催予定の写真展で展示します。

写真の応募先・お問合わせ先：

〒650-8570 神戸市都市計画局計画部アーバンデザイン室内
山麓リボンの道ウォークラリー運営委員会事務局 Tel.078-322-5543



☆さまざまな災害・防犯への理解を深める ～入門講座ダイジェスト～

専門家による講演・実践者による活動報告等により、防災・防犯について専門的な知識を習得する「入門講座」。

「第3期こうべ市民安全まちづくり大学」の前半3回の講座では、さまざまな災害などについて学んできました。以下に、講座の内容をダイジェストでお伝えします。

第1回（9月2日）『神戸の土砂災害について』

神戸大学都市安全研究センター教授 沖村 孝 氏

神戸はこれまで、昭和13年、39年、42年など過去に何回も大きな土砂災害に見舞われてきました。神戸にとって、六甲山系の土砂災害は避けることのできない大きな課題です。対策工事の着実な推進によって被害は次第に少なくなってきましたが、六甲山では約30年周期で集中豪雨が起きていることを考えると、現在は、危険な時期に入っていると言えます。

行政として備えが必要なのはもちろんですが、市民の皆さん一人ひとりが地域でのコミュニティ活動の中で、防災に取り組むこと、そして過去の災害の教訓を生かし将来に伝えるようにしてほしいと思います。

☆活動報告『兵庫県砂防ボランティア協会について』

兵庫県砂防ボランティア協会事務局長 山仲 晃実 氏

兵庫県砂防ボランティア協会とは、土砂災害及び雪崩災害から市民の生命や財産を守るため、斜面や溪流の点検や植樹行事等への参加等のボランティア活動を行い、市民の福祉向上を目的に設立されました。現在は、六甲山系グリーンベルト整備推進への協力など平常時の土砂災害防止に役立つ様々な活動、災害時の緊急パトロールや救援などの活動を行っています。地域での安全点検等防災活動にも、要請があれば協力していきたいと思いません。

第2回（10月7日）『神戸で再び大地震は起こるのか？』

神戸大学都市安全研究センター教授 石橋 克彦 氏

阪神・淡路大震災を経験した神戸の皆さんには、もうあのような大地震は二度と起きてほしくないという気持ちが強いと思います。

しかし、今後も神戸・阪神間では、浅い直下型大地震の発生や南海巨大地震、フィリピン海プレート内部での大地震など、さまざまな地震により大きな被害を受ける可能性があります。阪神・淡路大震災は決して特別大きな地震ではなく、この震災で大丈夫だった建物が次回も無事という保証はありません。地震は自然現象なので止められませんが、震災は私達の努力で軽減できます。

ふだんから防災意識を高めるように心がけてほしいと思います。

☆活動報告『トルコ国 支援活動報告』

神戸市市民局市民安全推進室安全企画課

推進係長 林 芳宏 氏

平成11年8月17日、トルコ南西部イズミット付近を震源とするマグニチュード7.4の地震が発生しました。震災による被害は死者17,000人以上、阪神・淡路大震災をはるかに超える痛ましいものとなりました。そこで神戸市からは、林 芳宏氏を含めた職員5名を8/27～9/9までの2週間、現地に派遣しました。彼らは、阪神・淡路大震災の時、応急復旧や復興対策に従事して得た経験と教訓、課題や工夫等をトルコの被災地に伝えて来ました。

第3回（11月4日）『我々は何を学んだか「ライフラインの問題点」』

神戸大学工学部 教授 高田 至郎 氏

阪神・淡路大震災で、ライフラインの復旧には、電話で1週間、電気で2週間、水道が10週間、ガスが12週間かかりました。しかし、これほどのダメージを受けたとはいえ、それぞれの都市インフラがこれまで行ってきた地震対策がもしなかったとしたら、被害はさらに拡大していました。事業者の地震対策は高く評価する必要があります。

地震後の都市インフラの復興については、①施設耐震化、②ネットワーク化、③分散化が再建の基本となっています。一方で、現在は高齢化社会となり、価値観も多様化する中、これまでの、将来需要を予測してそれを満足するようなインフラ整備よりも地域のニーズに対応できるきめ細かいサービスの提供が重要視される時代になってきつつあります。

☆活動報告『大阪ガスにおける震災時の復旧活動と「地震対策5か年計画」について』

大阪ガス株式会社 技術部 小川 安雄 氏

阪神・淡路大震災によるガスの被害状況は、供給停止が86万戸、ガス導管の被害箇所が26,500件、復旧までに実に85日間を要しました。震災時までに予防対策として、低圧導管にポリエチレン管を一部使用していましたが、ほとんど被害がなかったことから、今後、全ての低圧導管に適用拡大していくことになっています。また、地震対策システム(地震計の増設、緊急停止システム)を導入し、代替燃料、修繕材料をストックするなど、災害への備えに平常時から取り組んでいます。

☆☆この大学の講座については、今後インターネット上の神戸市のホームページでご紹介します。☆☆

(<http://www.city.kobe.jp/index.html>)

まち資源が地域に乏しければ、創ってしまえばよいということが始まったのが、葺合市場商店街連合協議会の皆さんが推進している「ふきあいランドマーク推進事業」である。さる11月23日～30日には、それぞれの市場・商店街の「創作民話」とそれにちなんだ「ランドマーク(まちしるべ)」を巡るスタンプラリーが催されたので記憶に新しいところである。各ラリーポイントでは、各市場・商店街で知恵をしぼった地域の歴史や由来にちなんだ「創作民話」と民話に出てくる御利益も著しく、靈験あらたかな(?)石、樹木等の「ランドマーク(まちしるべ)」を楽しみながら、民話の主人公、キャラクターをデザインしたスタンプを押すことができるというしくみである。市場・商店街の周辺には多くの復興住宅が建設されており、新しく住まれる方も多く、スタンプを集め巡ってもらうことにより、地域を知って頂くとともに、市場・商店街にも親しみをもってもらおうという趣向である。また、サンロードクニカ(上大安亭商店街)の空店舗を活用した「ふきあいランドマーク館」では、創作民話をもとに作成した紙芝居や「葺合歴史物語」などが展示されるとともに、民話集やポストカードの配付が行われた。将来的には、それぞれのランドマークにちなんだ自慢の逸品も順次開発されることになっており、遊び心あふれたユニークな企画ではあるが、商店街の生き残りをかけた総合的なまちおこし事業となっている。



ふきあいランドマーク館

創作民話の第一号はサンロードクニカの薬屋さんであるNさんが創作した『こくがのとげ抜き石』であるが、Nさんは、コンピュータ・グラフィックの達人であり、この民話のほか、前述の「葺合わがまち便利帳」の裏表紙を飾った「葺合の地名の由来」などいつもステキな作品を提供してくれる。Nさんのことばを借りれば、「昔のまちには、それぞれ豊かな表情があり、楽しませてくれたので、民話づくりによって、まちかどや路地裏にいろんなお話やそれにまつわるものがで

ければ、昔のように毎日きっと楽しい発見ができて、心がうきうきするのでは」というのが皆さんの願いである。ここに至るまでには、商店街の皆さんとそれを支援する神戸商工会議所中央支部の経営指導員方の並々ならぬ努力があったわけだが、私個人的にも思い出深いエピソードが数えきれないほどあり、とてもここでは紹介しきれない程である。ただ、お叱りを受けることを覚悟して一言だけ言わせて頂くと、市場・商店街の皆さんはそれぞれが一国一城の主であるだけに、なかなか気難しい人も少なくないけれど、これほど人材の豊富なおところもないと…。

この事例のように、地域にめぼしいまち資源がない場合だけでなく、まち資源が豊富な地域でも、絶えず発見・発掘を行っていかねば新鮮さや活力が失われてしまう。例えば、異人館や教会などエキゾチックな資源に恵まれた北野・山本地区でさえ、整備が進めば進むほどまちに生活感がなくなってテーマパークのようになってしまう。そのため、北野・山本地区をまもり、そだてる会の皆さんは、クリーン作戦など地道な活動とともに、異人館に伝統的建築物であることを伝える銘板を設置するなど、まちの記憶を残し、本物を失わないよう努力を続けられている。また、トアロードもかつて洋服や洋菓子など外国の生活文化を吸収し、普及していったメッカであったが、かつての輝きを失いつつあった。しかし、「北野工房のまち」の誕生とトアロードまちづくり協議会の皆さんの活動とともに「工房とマイスターのまち」として再生しつつある。



伝統的建築物であることを伝える銘板

大規模の再開発もまちの発展の起爆剤として重要であるが、このようにまち資源を大切に、人々がそれを生かし、生活を楽しむまちが、モザイクのように広がる都市—それが神戸であり、魅力ある都市の条件であると改めて思う次第である。

(前中央区まちづくり推進課長・現教育委員会社会教育部体育保健課長 見通孝)

まちセン ライブラリーニュース

こうべまちづくりセンター図書室
 まちづくり会館 4階・TEL 361-4523
 開館時間：午前10時～午後6時
 休館日：毎水曜日・年末年始

新着図書のご案内

	図書名	著者・編者	発行元	発行年月
1	マスタープランと地区環境整備	森村 道美	学芸出版社	1998年2月
2	都市政策論	太田 修治	日本経営協会総合研究所	1999年3月
3	環境都市計画	石井 一朗 外	セメントジャーナル社	1998年8月
4	自転車とまちづくり	渡辺 千賀恵	学芸出版社	1999年3月
5	建築家の法的責任	立花 文子	法律文化社	1998年12月
6	新編 まちづくりの構想	西山 卯三	都市文化社	1998年12月
7	都市のリ・デザイナー—持続と再生のまちづくり—	鳴海 邦碩	学芸出版社	1999年3月
8	環境学—遺伝子破壊から地球規模の環境破壊まで	市川 定夫	藤原書店	1999年4月
9	一家に床下は必要か—現代住宅の見直し	大海 一雄	メタモル出版	1998年9月

当センターにふさわしい図書・資料をご紹介します。担当、橋本まで

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
12月2日(木)～7日(火)	第23回ART'81展	ART'81協会
12月9日(木)～14日(火)	第7回「欣洋会」作品展	欣洋会
12月16日(木)～21日(火)	山田憲三 遺作展	山田 福子
1月6日(木)～1月11日(火)	神戸大学写真部部展	神戸大学写真部

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

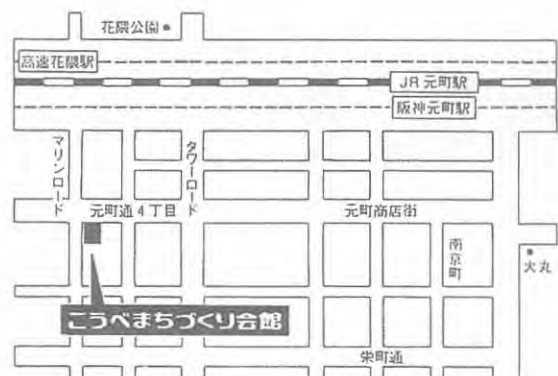
12月2日(木)～27日(月)	兵庫運河パネル展	兵庫区まちづくり推進課
12月までの第2日曜日午後	ペチュニアサロンコンサート	元町4丁目商店街・アスク音楽院

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター
 (こうべまちづくり会館 3F)
 電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584
 受付は、月・火・木・金曜の午前10時～午後5時
- 祝日・土・日曜は
 まちづくり相談コーナー で受け付けます
 (こうべまちづくり会館 4F)
 時間は、午前10時～午後5時

自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館 4F)
 会報等の印刷サービスや学習会へのインストラクター派遣など
 受付は、午前10時～午後6時
 電話 078-361-4565



〒650-0022
 神戸市中央区元町通4丁目 2-14
 電話 078-361-4523
 FAX 078-361-4546